令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【宮前小学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1)「今の自分の理解度はどうか」「友達の考えをどう取り入れるか」を自覚し、自らの学びを修正・改善することができる資質・能力 (2)既習事項と新しい学習事項をつなぎ、他教科や日常生活の場面でも知識を活用しようとする資質・能力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)毎時間の終末に、「何を学んだか」「どのように学んだか」等の教科に応じた観点に沿って振り返りを実施することで、「学びのつながり」を可視化する。【毎日】 (2)授業で習ったことを家庭で実践したことを報告する時間を設定することで、日常生活での知識の活用を図る。【単元1回】

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語では、令和6年度から課題であった「言葉の特徴や使い方に関する事項」において向上が見られ、全国の平均正答率を上回った。「情報の扱い方に関する事項」においては、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る問題で課題が見られた。 算数では、「測定」の領域において、全国を大きく上回る平均正答率となった。しかし、「変化と関係」の領域において、式の意味を理解し正しいものを選ぶ問題や、基準量・比較量・割合の関係が正しい図を選ぶ問題において、課題が見られた。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	国語では、語彙の増強や語句の正しい使い方に関する学習活動（辞書活用や日々の言葉集めなど）の成果が表れており、言葉の特徴に対する意識が高まっている。一方、図表やモデル図を用いて「語句と語句の関係」を整理し直したり、文章構造を視覚的に構造化して捉え直したりする学習機会・活用の経験が必要である。 算数では、長さや面積・かさなどの「測定」に関する数量感覚や単位の理解、測定技能の定着が図られている。式を単なる計算の手続きとして捉えがちであり、「なぜその式になるのか」という関係性や意味（基準量・比較量・割合など）を、図やテープ図・関係図を用いて思考・説明する力に課題がある。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	(1)毎時間の終末における振り返りを習慣化し、「何を学んだか」「どのように学んだか」を記述させることで、児童生徒が自発的に学びを可視化・意識化できるようになってきている。一方で、自己の学びの修正や改善にまで深めて活用する点には個人差が見られる。 (2)各単元終了時に家庭での実践報告を行う時間を設け、既習事項を日常生活に接続させる取り組みを継続している。身近な生活と学習を結びつける意識の高まりは見られるが、教科や単元ごとの活用場面の設定に一部ばらつきがある。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	・単に振り返りを記述するだけでなく、「次は何に気をつけるか」「友達のどの考え方を採り入れたか」など、次の学びの改善や自己修正につながる具体的な視点を提示・指導する。 ・全国学力調査の課題（語句の関係性、割合や式の意味の理解）を踏まえ、国語・算数を中心に「図や表」「関係図」「思考ツール」を用いた振り返りや学習活動を導入し、概念の視覚的・構造的な理解と定着を図る。 ・授業で学んだ概念を他教科や家庭生活で具体的に生かす場面を工夫し、既習事項を活用する機会を拡充する。	

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（おおむね達成） C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（おおむね達成） C 6割未満（あと一歩）